

四谷大塚		4年					
		算数					
学習内容		13回 速さの表し方 14回 平均 15回 総合（予習シリーズ4年⑩ 第11回～第14回） 16回 角すいと円すい					
家庭学習 ポイント	12月の学習内容は「速さの表し方」「平均」「総合(11回～14回)」「角すいと円すい」です。「速さの表し方」では、基本的な速さの意味、速さの単位などを中心に学習します。速さは割合と並んで、中学受験の算数において最重要単元の1つです。まずは「単位あたりの量」の概念をしっかりと身につけることが大切で、「速さ=一定時間（1秒や1分、1時間など）に進む距離」という感覚に慣れていきましょう。この感覚が身につければ「はじき（はやさ×じかん=きより）」など丸覚えに頼ることなく、自信を持って式が立てられるようになります。「平均」では平均の求め方、平均から全体量を求める考え方などを学習します。平均の求め方は「全体の合計÷個数」ですが、このことから全体の合計を面積、平均と個数をそれぞれ縦の長さと横の長さに置き換えて考えられるという、面積図の概念も理解できます。冬期講習では、速さ・平面図形・立体図形・割合に関する文章題などを学習します。これまでに習った分野の復習内容も登場するので、まずは講習会までにカリキュラムをチェックし、個々の課題となる単元が扱われているかをチェックしておくことが大切です。						
課題の把握と解決策	チェック1	速さの概念が脇に落ちていますか？		チェック			
	解決策	丸覚えではなく「一定時間に進む距離=速さ」であることを理解しておくことが大切です		<input type="checkbox"/>			
	チェック2	速さの単位換算が正しくできますか？		チェック			
	解決策	秒速⇒分速⇒時速の換算だけでなく、mとkmの換算も同時に正しく行えるよう練習しましょう		<input type="checkbox"/>			
	チェック3	平均の出し方、平均から全体量の出し方を理解していますか？		チェック			
	解決策	2つのグループをあわせた平均を考える場合にも、全体量に注目する必要があります		<input type="checkbox"/>			
	チェック4	合計=面積、平均と個数=縦の長さと横の長さに置き換えて考えられることを理科していますか？		チェック			
	解決策	面積図の考え方の基本となります		<input type="checkbox"/>			
	チェック5	冬休みまでに、自分の課題を見つける準備ができていますか？		チェック			
	解決策	毎月の組分けテストなどの正誤表などを使って、解決課題をリストアップしておきましょう		<input type="checkbox"/>			
四谷大塚		4年					
		国語					
学習内容		13回 説明文・論説文（13）要旨③ 接続関係③〈逆接〉1 類義語 14回 説明文・論説文（14）話題と要旨 接続関係④〈逆接〉2 対義語 15回 総合（予習シリーズ4年⑩ 第11回～第14回） 16回 詩 詩とは何か 接続関係⑤〈説明〉 外来語					
家庭学習 ポイント	説明文・論説文では、話題や要旨のつかみ方、接続関係を探ります。その後は詩の読み方・表現技法を学び、語句は敬語についての授業が始まります。講習では説明文と物語文を中心に読解法を確認し、漢字・語句のテストも行います。詩は、物語文以上に言葉を削ぎ落として表現されています。このことから、描かれている情景の「映像化」（描かれている情景を映像のように思い浮かべること）ができるかどうかで理解に大きな差が生まれます。その点を意識していないと、ぼんやりとした理解で終わってしまいます。入試問題ではよく出題されるわけではありませんが、詩を通した映像化の練習は、物語文を読解する上での大きな力になります。映像化できたことで「わかった」という実感があると、学習意欲も高まります。正答率が高まることで、苦手意識の克服にも期待ができます。お子さんに声かけし、どのような声かけで頭の中に映像が広がるかを、丹念に探ってみてください。語彙の不足によって（詩の中で使われている表現が具体的にイメージできていない）映像化ができないのなら、その場で親御さんが補いながら想像力を働かせてみてください。						
課題の把握と解決策	チェック1	論説文と説明文の違いを意識して文章を読んでいますか？		チェック			
	解決策	論説文は、より筆者の意見が重点的に述べられています。事実と意見の読み分けがポイントです		<input type="checkbox"/>			
	チェック2	文章と文章の「逆説」の関係と重要部分の関連が意識できていますか？		チェック			
	解決策	逆説の関係が述べられるとき（これまでの話題の否定）筆者の意見が述べられることが多いですね		<input type="checkbox"/>			
	チェック3	詩の読解において「映像化」を意識的に行ってていますか？		チェック			
	解決策	上手にできるようになると、物語文の読解にも応用できます		<input type="checkbox"/>			
	チェック4	詩で使われる独特な表現技法に注目して読んでいますか？		チェック			
	解決策	繰り返しや比喩の部分に筆者の「感動」が隠れています		<input type="checkbox"/>			
	チェック5	語彙を増やす努力をコツコツ続けていますか？		チェック			
	解決策	16回の外来語なども、ご家庭の会話の中で積極的に使うといいですね		<input type="checkbox"/>			

四谷大塚					4年				
					理科				
学習内容					13回 物の燃え方 14回 音 15回 総合（予習シリーズ4年④ 第11回～第14回） 16回 冬の生物				
家庭学習 ポイント					12月は13回「物の燃え方」で燃焼の仕組み、化学計算の基本的な考え方を学習します。燃焼に限らず（高学年の中和なども）、化学計算ではまず「ことばの式」で化学変化の様子を表し（中高生の化学反応式にあたるものと言葉で表したもの）、その基本的な反応式に対して、問題で与えられた反応が「何倍の組み合わせになっているか」を考えます。この「ことばの式」をしっかりと書いて考えることができているか、必ずチェックしてあげてください。「簡単な問題だから省略する」という癖がついてしまうと、いずれ複雑な問題に取り組むようになったときにつまずきます。「簡単な問題でも必ず書く」という習慣を4年生のうちからつけることが重要です。14回「音」では、音の三要素とその他の性質を学習します。「光」の単元とも共通しますが、音の3つの要素「音の強弱」「音の高低」「音色」が何によって決まるのか、そのことに関連する「日常で経験する現象」にどんなものがあるかを関連して学習していくと、興味を失わずに学習していくことができます。16回「冬の生物」では、冬越しなど生物の冬の姿を学びます。渡り鳥、昆虫の冬越しなど、模試や入試でもよくとり上げられる内容です。				
課題の把握と解決策	チェック1				燃焼などの化学計算では必ず「ことばの式」を書いて考えていますか？		チェック		
	解決策				基本的な問題を解くときから「必ず書く」という習慣をしっかりとつけることが大切です		<input type="checkbox"/>		
	チェック2				音の高低が振動数によって決まることが「実感」できていますか？		チェック		
	解決策				自動車や飛行機の速度（＝エンジンの回転）が上がると音が高くなるなど経験時に指摘しましょう		<input type="checkbox"/>		
	チェック3				「ドップラー効果」について「どのように聞こえるか」言葉で説明できますか？		チェック		
	解決策				こちらも、救急車のサイレンが通り過ぎた途端に低くなることを、経験時に指摘しましょう		<input type="checkbox"/>		
	チェック4				主な昆虫の冬越しの姿を理解していますか？		チェック		
	解決策				「冬越し＝安全な場所、姿で」をKWに覚えましょう。アリやハチなどは安全な「巣の中」ですね		<input type="checkbox"/>		
	チェック5				過去の学習内容の復習ができますか？		チェック		
	解決策				2ヶ月、3ヶ月前に習った内容の復習を、少しづつでも家庭学習に入れられるのが理想です		<input type="checkbox"/>		
四谷大塚					4年				
					社会				
学習内容					13回 野菜とくだものづくり～日本の農業(3) 14回 肉や牛乳をつくる～日本の農業(4) 15回 総合（予習シリーズ4年④ 第11回～第14回） 16回 よい作物、多くの作物をつくるには？～日本の農業(5)				
家庭学習 ポイント					第13回「野菜とくだものづくり」第14回「肉や牛乳を作る」、第15回「総合」、第16回「よい作物、多くの作物をつくるには？」が冬期講習前までの学習内容です。13回では日本の畠作や果物づくりを、14回では日本の畜産業の内容と問題点を学びます。先月に引き続き「農業」について学んでいきますが、この時期に学ぶ「農業」や「工業」といった産業別地理は、「地名」をキーワードにして、夏までに学んだ地方別地理と結びつけることが大切です。テキストに登場する地名は、すべて地図の上でどこにあるかをイメージできるようにしておかないと、組分けでの高得点は期待できません。地名が出てきたら地図をチェック、という習慣は今こそ重要です。学習に白地図も活用しましょう。それぞれの家畜と飼育されている地域は結び付けて覚えておく必要があります。地方ごとの農業の工夫に関しては、それぞれの地域の気候や土壤に関する知識をしっかりとつけた上で、理解していく分野です。冬期講習は都道府県の姿、日本の農業の特色など、既習内容の復習が中心となります。				
課題の把握と解決策	チェック1				とうもろこしの輸入元1位の国を答えられますか？		チェック		
	解決策				アメリカ合衆国ですね。馴染みの深い作物ですが、国内生産はほとんどありません		<input type="checkbox"/>		
	チェック2				カレーライスの材料＝ジャガイモ、ニンジン、タマネギの生産量がいずれも1位の都道府県は？		チェック		
	解決策				北海道ですね。お米は新潟県（北海道は2位）です		<input type="checkbox"/>		
	チェック3				扇状地と果物づくりの関係を正しく説明できますか？		チェック		
	解決策				扇状地は水はけがよく、根腐れしやすい果物の栽培に適しています。自然環境とともに覚えましょう		<input type="checkbox"/>		
	チェック4				乳牛、肉牛とも飼育数がトップの都道府県は？		チェック		
	解決策				北海道です。その他鹿児島県（ぶた1位）、宮崎県（肉用若鶏1位）など押さえましょう		<input type="checkbox"/>		
	チェック5				社会の学習に地図帳、白地図を活用していますか？		チェック		
	解決策				特に白地図は自分で作ると繰り返し入試まで活用でき、おすすめです		<input type="checkbox"/>		